

## 令和元年度（理科）授業改善推進プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的な指導計画
1 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関心意欲の継続 問題集を反復して行い、知識・理解を深めさせたが、課題に向き合わない生徒においては十分に結果に反映させられなかった。</li> <li>・ 思考・表現力の向上 定期考査や授業の発問に対して、自分の考えをうまく表現できないことが見受けられた。</li> <li>・ 知識の定着 専門用語の定着が反復不足で不十分であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近な生物についてフィールドワークを行ったり、生物の観察を行ったりしたことを、発問によって理解を深めさせ、問題演習への関心を高めさせる。</li> <li>・ 話し合い活動、発表活動を取り入れ、複数で話し合わせることにより、理解を深めさせる。</li> <li>・ 小テストを複数回行い、知識の定着を確認し、家庭学習による復習の必要性を意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物の単元は、画像提示や模範の映像を見せることで興味関心を深めさせる。物理分野は実験・体験を基に身近な使用例を示して理解を深めさせる。</li> <li>・ 話し合い、発表の内容と連動したワークシートを活用し、思考の手順や発表法を考えさせる。</li> <li>・ 前時の授業の確認を行い、本時の内容とのつながりを理解させる。</li> </ul>
2 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思考・表現力の向上 実験レポートや定期考査などで、自分の考えについて根拠を示して表すことが不足している傾向がみられる。</li> <li>・ 基本的な実験操作とその意味の理解向上 基本的な実験操作ができなかったり、その行為の意味を理解していないケースが見受けられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の発問時や実験レポート作成時に、生徒自身の考えを論理的に考えられるように、話に誘導を設けたり、ワークシートを作成するなど工夫して指導を行う。</li> <li>・ 実験を実際に行う前に、実験毎のつながりや、何を確認したいのかを明確にし、そのための基本的な実験操作を教え、操作上の注意点や利点に触れ、科学的な視点を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一人が考えをまとめられる時間をとってから、学び合い活動(班活動)を行い、自分の意見を紹介しあうなど行い、教員のほうで一部班を取り上げて紹介するなどし、理解を深める。</li> <li>・ デジタル教科書の実験操作のビデオを見せて、手本となる動作を確認しながら、教員以外の視覚的な情報を入れながら、再確認する時間を設ける。</li> </ul>
3 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 興味関心を引く教材の工夫</li> <li>・ 思考力・表現力の向上 発想が豊かな生徒でも、理科学的な事物・現象を科学的に分析する方法を考えたり、根拠を示して表現したりすることを苦手とする生徒が多い。</li> <li>・ 練習問題の提示 反復不足や表面だけの理解で満足してしまい、学力の定着に至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の実態把握に努め、適切な教材を用意する。ICT機器も積極的に活用していく。</li> <li>・ 実験の前に予想を立てる時間を重視する。そのほかにも、考えさせ、議論することを重視する。</li> <li>・ 既習内容について、問題の形式で確認を行うことで、理解を深めるとともに問題に慣れさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要に応じて小学校の内容まで振り返って学習し直す。</li> <li>・ 科学的な用語の意味を、ただ表面だけ理解するだけでなく、それを使いこなせるようにしていく。</li> <li>・ 教科書や問題集以外にも、入試問題などにも取り組ませる。</li> </ul>